

消 防 消 第 1 2 1 号
令 和 5 年 3 月 3 1 日

各都道府県消防防災主管部局 御中

消 防 庁 消 防 ・ 救 急 課

「令和4年度消防庁女性活躍ガイドブック」の作成・送付について（通知）

平素から、女性消防吏員の活躍推進に向けた積極的な取組に関し多大な御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、消防庁では、「令和4年度消防庁女性活躍ガイドブック（以下「ガイドブック」という。）」を作成しましたので送付します。

このガイドブックは、女性消防吏員の更なる活躍推進に向けた取組に係る「各消防本部の良好な取組事例」や「女性消防吏員活躍推進モデル事業の取組事例」、「基礎データ資料」について掲載しています。

各都道府県消防防災主管部（局）におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対し、周知徹底されるようお願いいたします。

なお、これまでに作成したガイドブックや、女性活躍に関する通知等については、消防庁ホームページにも掲載しております。

【参考】

https://www.fdma.go.jp/relocation/josei_shokuin/josei-shokuin001.html

「消防庁HP－消防庁の役割－消防・救急体制の充実強化－女性消防吏員の活躍推進に向けた取組」より御覧いただけます。

消防庁消防・救急課 職員第一係 松本・布施 電 話 03-5253-7522 (直通) E-mail shokuin@soumu.go.jp

令和4年度 消防庁女性活躍ガイドブック

令和5年3月
消防庁消防・救急課

もくじ

第1章 消防本部における効果的な取組事例の紹介

- ◆女性消防吏員の採用拡大に向けた取組……………[P 2](#)
- ◆女性専用施設・装備の改善……………[P 6](#)
- ◆適材適所を原則とした職域の拡大……………[P 9](#)
- ◆ライフステージに応じた様々な配慮……………[P12](#)
- ◆若手女性消防吏員の声……………[P16](#)

第2章 「女性消防吏員活躍推進モデル事業」の紹介

- ◆青森県……………[P20](#)
- ◆宮城県消防学校……………[P21](#)
- ◆仙台市消防局(宮城県)……………[P23](#)
- ◆酒田地区広域行政組合消防本部(山形県)……………[P24](#)
- ◆いわき市消防本部(福島県)……………[P26](#)
- ◆佐倉市八街市酒々井町消防組合(千葉県)……………[P27](#)

第3章 女性消防吏員に係る基礎データ資料……………[P28](#)

第1章

消防本部における効果的な取組事例の紹介

【女性消防吏員の採用拡大に向けた取組】

■ 四街道市消防本部(千葉県)

- 採用試験の単独開催
- 女性向け採用説明会の開催
- ケーブルネットを活用した広報

■ 相模原市消防局(神奈川県)

- SNSによる広報
- 女子学生とのコラボによるデザイン防火衣の制作
- 女子学生体験会の開催
- 採用パンフレットの制作

■ 四日市市消防本部(三重県)

- 女性向けオンライン就職説明会

■ 三原市消防本部(広島県)

- 多様な広報媒体を活用したPR

女性消防吏員の採用拡大に向けた取組

【四街道市消防本部(千葉県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域:千葉県四街道市
- 管轄人口:95,983人
- 消防吏員数:124人
(うち女性3人・女性比率2.4%)

令和2年度に「女性消防吏員活躍推進アドバイザー(北海道 西胆振行政事務組合消防本部)」の派遣を受け、女性消防吏員獲得に向けた戦略的な採用試験の取組について、消防長を含めた幹部職員に向けた研修会を開催しました。

研修会を通じて、学力だけではなく人物重視の試験の導入や直接学校に赴いての説明会を実施等、積極的かつ戦略的な採用活動により受験者数を大幅に増加させ、女性の受験者数を増加させた実例を学び、当本部でも今までの採用試験を抜本的に見直すこととしました。

採用試験の単独開催

令和2年度まで近隣市町村の共同採用試験に参加していましたが、受験者数の減少に伴い、令和3年度より県下近隣消防本部が実施する採用試験の日程とずらして**単独開催に変更**しました。

これにより、受験者数が272名(前年度比267名増)と大幅に増加、19名の女性受験者のうち、1名が採用に至りました。

単独開催の導入やインターネットを活用した募集を実施したことにより、全国各地から受験応募があり、人材の確保が容易になりました。一方で、採用事務の増加や他の消防本部との併願者の辞退を見越して補充合格者を多めに確保する等の対応が生じており、今後の課題です。

採用年度		H30	R1	R2	R3
受験者	男性	16	11	5	253
	女性	2	0	0	19
	合計	18	11	5	272
採用者	男性	3	4	4	6
	女性	1	0	0	1
	合計	4	4	4	7

近年の採用試験結果

女性向け採用説明会の開催

令和2年度より、一般向けの「消防業務説明会」とは別に「**女性向け採用説明会**」を開催しています。

女性の就職活動者のみを対象として、若手女性消防吏員が実際に勤務して感じることや学生が気になっていることを中心に意見交換を行っています。コロナ禍に伴い、中止やオンライン開催へ変更することもありましたが、この説明会を通して、採用広報のほか、女性目線の意見を再認識することができました。



女性向け採用説明会

ケーブルネットを活用した広報

令和3年度に当市消防本部初となる女性の化学消防ポンプ自動車の機関員が誕生し、女性の職域が拡大されたことに伴い、**ケーブルネットにて特集**を組んでもらうなど、現場で活躍する女性消防吏員の広報活動を積極的に実施しました。職員は、特集インタビューの中で、「機関員だけでなく、女性としての強みを活かして、消防で女性が活躍できる場を広げていきたい。」と述べており、市民等への女性消防吏員の認知度向上に繋がりました。

また、令和4年度から、女性の救急救命士が初めて採用されるなど女性の活躍できる場が拡大していますので、このことも広くメディアに発信し、女性消防吏員の認知度向上を図っていきたいと思います。



女性消防吏員の採用拡大に向けた取組

【相模原市消防局(神奈川県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域: 神奈川県相模原市
- 管轄人口: 725,369人(推計)
- 消防吏員数: 775人
(うち女性34人・女性比率4.4%)

SNSによる広報

全国から女性消防吏員を志す学生等に、当市を受験していただくための取組として、若者に認知が高いInstagramを積極的に活用し、女性消防吏員をモデルにした採用案内や女性活躍を紹介しています。また、当市消防局独自のホームページに女性消防吏員の紹介やインタビューの動画を掲載するなど採用に伴う広報活動を積極的に行っています。



女性消防吏員インタビュー

女子学生とのコラボによる広報用デザイン防火衣の制作

当市消防局、相模女子大学及び(公社)相模原市防災協会が連携し、消防フェア等で試着体験のできる、「SNS映え」する火災予防広報のデザイン防火衣の制作に取り組みました。学生が防火衣を制作するに当たり、イメージを膨らませた中でデザインされるよう、消防署で1日密着体験を行いました。完成後には、学園祭のファッションショーでのお披露目や消防フェアなど、各種イベント等で周知しています。この取組により若い世代、特に女性への関心が上がるとともに、採用試験の女性受験者増加へと繋がればと考えています。



デザイン防火衣



ロゴマーク

女子学生体験会の開催

受験適齢期の女性に対して、実際の業務内容の認識及び理解の一助となるべく、令和元年度に、高校生から25歳以下の女性を対象とした「女性消防官のお仕事体験1DAYインターンシップ」を開催し、消防施設の見学のほか、防火衣の着装や放水体験、女性消防吏員との座談会を行いました。また、総務省消防庁主催「女子学生向け消防職員職業体験イベント」などの様々なイベントに積極的に参加し、採用の増加に繋がっています。

採用パンフレットの制作

男女ともに安心して働き続ける職場環境であることを伝えるため、パンフレット内に女性消防吏員の活躍を特集するとともに、将来のキャリアパスイメージやロールモデルを紹介し、女性消防吏員を志す方に消防の魅力と消防分野での女性活躍の可能性を周知しています。



採用パンフレットの女性消防吏員特集

女性消防吏員の採用拡大に向けた取組

【四日市市消防本部(三重県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域(1市2町) 三重県四日市市、三重郡朝日町、三重郡川越町
- 管轄人口:335,844人 ○消防吏員数:375人(女性17人・女性比率4.5%)

女性向けオンライン就職説明会

当市消防本部で働く魅力とやりがいを伝え、女性受験者数の増加を図ることを目的として「女性向けオンライン就職説明会」を開催しました。

説明会では、当市の概要説明を行うとともに、女性消防吏員の活躍状況を伝え、説明会の最後には女性消防吏員との座談会を実施しました。参加した方々は、消防職に対する不安やプライベートに関することなど様々な相談をしていました。

また、採用募集ポスターには女性消防吏員の活躍を多くの人に知ってもらうため、女性消防吏員をメインとした採用募集ポスターを作成しています。



女性向けオンライン就職説明会



採用募集ポスター

【三原市消防本部(広島県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域(1市1町) 広島県三原市、世羅郡世羅町
- 管轄人口:104,843人
- 消防吏員数:169人 (うち女性3人・女性比率1.8%)

多様な広報媒体を活用したPR

当市が発行している広報誌において、令和5年3月号では表紙に女性消防吏員を起用するなど、市民に向けて女性消防吏員の活躍を発信しています。

また、外部機関からの取材にも積極的に応じ、テレビやインターネットに取り上げられるなど広く発信をしています。

メディア出演の様子



広報誌の表紙



<消防本部の声>

当市消防本部における女性消防吏員は現在3名で、目標としている女性吏員数には程遠い状況です。

しかし、女性消防吏員を採用したことで、職場内における幹部をはじめとする男性職員の意識改革にも繋がり、とても良い効果を表していると思います。今年度の採用試験会場には女性の姿がありませんでした。消防がもっと女性にとって魅力ある職場、活躍できる職場であるよう、ハード・ソフト両面において、更なる環境改善に努め、女性消防吏員が「自分らしく」、そして「安心して」働ける職場作りを目指し、さらなる女性消防吏員の採用を目指していきます。



【女性専用施設・装備の改善】

- 四街道市消防本部(千葉県)
- 相模原市消防局(神奈川県)
- 四日市市消防本部(三重県)
- 名張市消防本部(三重県)

女性専用施設・装備の改善

【四街道市消防本部(千葉県)】

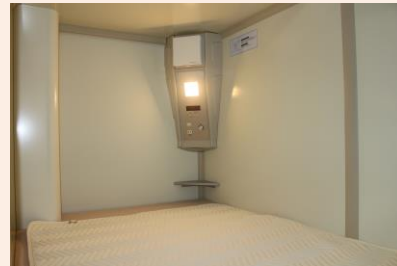


令和4年4月1日現在

- 管轄区域: 千葉県四街道市
- 管轄人口: 95,983人
- 消防吏員数: 124人
(うち女性3人・女性比率2.4%)

当市消防本部は、昭和46年4月に発足し、昭和48年に初の女性消防吏員を採用していますが、当時は女性専用施設が整備されておらず、女性が交替制勤務ができる環境が整っていないことから、事務職の内勤者としての勤務でした。

女性専用施設が整備されたのは、平成30年度であり、消防署に1当務2名の女性消防吏員が勤務できる環境が整備され、令和4年4月1日現在、在籍する3名の女性消防吏員のうち、2名が消防署勤務で現場へ出勤しています。



女性仮眠室



女性仮眠室



女性シャワー室

【相模原市消防局(神奈川県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域: 神奈川県相模原市
- 管轄人口: 725,369人(推計)
- 消防吏員数: 775人
(うち女性34人・女性比率4.4%)

当市消防局では、平成4年度に女性消防吏員を初めて2名採用してから、継続的に採用しています。採用当時は予防業務等毎日勤務が主な活躍の場でしたが、平成6年の女子労働基準規則(現・女性労働基準規則)の一部改正により、女性消防吏員に係る深夜業務の規制が解除され、交替制勤務職場にも活躍の場が広がり、令和4年4月1日現在、34名の消防吏員が在籍しています。

当市消防局では、署所の新庁舎建設時に女性専用施設を整備しています。また、老朽化が顕著となっている施設には、市一般公共建築物長寿命化計画に基づき、主に施設の保全と設備の機能性能の向上を行うほか、女性専用施設の整備も併せて行っています。女性専用施設は、男性は入室できないエリアとし、エリア内には更衣室、仮眠室、洗面所、トイレ、シャワー室、洗濯乾燥機を整備し、女性消防吏員が勤務しやすい環境を整えています。



女性専用エリア



女性仮眠室



女性用洗面台等

女性専用施設・装備の改善

【四日市市消防本部(三重県)】



当市消防本部は、平成28年時点では、全10庁舎中、女性用施設(仮眠室、ロッカー室、浴室等)が整備されている庁舎は中消防署、中消防署中央分署、北消防署で、女性消防吏員が交替勤務をする場所が限られている状況でした。女性消防吏員がより一層活躍できる施設整備を行うため、施設の改修、新庁舎への女性専用施設の整備を進め、令和4年度には8庁舎に女性用仮眠室や浴室等を設置しました。令和7年度には2つの出張所の新庁舎建設が完了し、**全ての庁舎で女性消防吏員が快適に安心して24時間勤務を行える体制が整います。**

一例として、令和4年度に新庁舎整備を実施した南消防署については、仮眠室、トイレ、浴室等の設備を独立した区画内にまとめた女性専用エリアを設置しています。

令和4年4月1日現在

- 管轄区域(1市2町) 三重県四日市市、三重郡朝日町、三重郡川越町
- 管轄人口:335,844人 ○消防吏員数:375人(女性17人・女性比率4.5%)

女性専用施設→



女性仮眠室→



【名張市消防本部(三重県)】



当市消防本部は、従前から採用条件において男女の区別はなく、体力試験基準においては、男女別の基準を策定する等、公平な試験としております。しかしながら、庁舎の老朽化が著しく、女性専用トイレはあるものの、仮眠室、浴室は男女共通であり、お世辞にも女性消防職員が働きやすい職場とは言えない環境でした。そこで、平成22年6月、老朽化した消防本部を一新し、災害対応能力を強化するとともに、食堂、会議室の整備、**仮眠室の完全個室化**、女性専用の休憩室等、男女ともに働きやすい職場環境を整備しました。

また、女性消防吏員の採用については、全国の共通目標比率を参考とし、5名程度を数値目標としつつ、市ホームページや広報等で女性消防職員が働きやすい環境が整っていることをPRしております。その成果か、平成30年4月に初めて女性消防吏員を採用して以降、現在3名の女性消防吏員が、火災・救急現場等で活躍しております。今後の課題としては、他の分署、出張所においても仮眠室の完全個室化、女性専用トイレの整備等、男性・女性ともに働きやすい環境整備を推進していく予定です。

令和4年4月1日現在

- 管轄区域:三重県名張市
- 管轄人口:76,462人
- 消防吏員数:115人
(うち女性3人・女性比率2.6%)



女性仮眠室



女性専用施設

【適材適所を原則とした職域の拡大】

■ 相模原市消防局(神奈川県)

- 署緊急消防援助隊女性隊員受援訓練
(若手職員訓練企画プロジェクト)

■ 三原市消防本部(広島県)

- 広島県初の女性救助隊員誕生

■ 四日市市消防本部(三重県)

- 消防学校教官派遣など様々な分野で活躍
- 長所を活かしたPR実施

適材適所を原則とした職域の拡大

【相模原市消防局(神奈川県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域: 神奈川県相模原市
- 管轄人口: 725,369人(推計)
- 消防吏員数: 775人
(うち女性34人・女性比率4.4%)



緊急消防援助隊員受援訓練の様子

署緊急消防援助隊女性隊員受援訓練(若手職員訓練企画プロジェクト)

これまで、女性の緊急消防援助隊派遣については、宿営地の環境整備の課題等から当市消防局では派遣していませんでしたが、令和3年10月から派遣先の条件が整えば、女性消防吏員を後方支援隊として派遣することを可能としました。このような状況を受け、若手職員が様々な課題について問題提起するとともに、真に必要な訓練を自ら企画する、当市独自の企画プロジェクトを活用し、女性消防吏員が企画した、**緊急消防援助隊員受援訓練を実施**しました。訓練では災害情報の収集や宿営に伴う設定等を行い検証も行われました。このような訓練を通じ、適材適所の視点から業務内容の課題を抽出し、解消することにより職域の拡大に努めています。

【三原市消防本部(広島県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域(1市1町)
広島県三原市、世羅郡世羅町
- 管轄人口: 104,843人
- 消防吏員数: 169人
(うち女性3人・女性比率1.8%)

広島県初の女性救助隊員誕生

令和4年4月に**広島県では初めて女性救助隊員が当市消防本部から誕生**しました。

体力的には厳しい部分がありますが、日頃の勤務態度や向上心、消防に必要な技術、女性視点での現場対応等を考慮し、最後は救助隊員として勤務したいという熱意を認めたためです。

今後も、女性消防吏員の勤務配置上の取扱い並びに勤務条件は、男性消防吏員と同等に取扱うことを原則とし、適正を見極めた上で決定します。

女性救助隊員



<女性消防吏員の声> 平成30年度採用 消防士長

私は、テレビドラマで見た消防士の姿に憧れ、生まれ育った三原市で消防士になりたいと思い、3回の受験を経て、平成30年に三原消防に採用されました。現在は入庁してから5年目となり、予防・警防・救助と経験を積み、現場の最前線に立ち活動しています。現在救助隊として活動しており、初めは救助隊に対して憧れはありましたが、自分には程遠い存在だと思っていました。しかし、自分に出来ることが増え、様々なことに挑戦する中で、自然と救助隊を目指すようになりました。先輩方や同期、後輩など様々な人に支えられ仕事をすることができています。

自分自身の役割は当番によって隊長・機関員・隊員と変わります。その中で自分の役割、周りとの連携を大切に自分が今やるべきことを理解しながら安全・確実・迅速に活動することを心がけています。これからも様々なことに積極的に挑戦し、活躍する場を開拓していきたいです。

適材適所を原則とした職域の拡大

消防学校教官派遣など様々な分野で活躍

当市消防本部の女性消防吏員は様々な分野で活躍をしています。消防隊員、救助隊員、救急隊員をはじめ、指揮隊やドローン隊などで活躍する職員もいます。平成29年には県内初の女性高度救助隊員の配置、平成30年には県内初女性消防学校教官を派遣するなど、女性消防吏員の職域も拡大しています。

【四日市市消防本部(三重県)】



長所を活かしたPR実施

自分の長所を活かして当市消防本部のPRを実施した女性消防吏員の活躍を紹介させていただきます。

<女性消防吏員の声> 平成28年度採用 消防士長

「消防＝火災・救急・救助」市民から見た消防は、やはりこのようなイメージが強いのかと思います。しかし、予防関係の部署に約5年半勤務し、市民には知られていない多くの業務が消防を支えていることを改めて感じています。

そして、消防について広く知ってもらいたいという思いから、令和4年度に私が所属する予防保安課の先輩と四日市市消防本部公式キャラクター「ラブ」のLINEスタンプを作成しました。様々な機関との調整やイラスト描画に2人で苦戦しましたが、周りからの嬉しい声もあり、効果的な広報になったのではと感じています。

思いを形にすることができる環境に感謝し、これからも積極的に新しいことに挑戦していきたいと思います。



マスコットキャラクター「ラブ」
LINEスタンプ



LINEスタンプ作成者

令和4年4月1日現在

- 管轄区域(1市2町)
三重県四日市市
三重郡朝日町
三重郡川越町
- 管轄人口:335,844人
- 消防吏員数:375人
(女性17人・女性比率4.5%)

【ライフステージに応じた様々な配慮】

■ 相模原市消防局(神奈川県)

- 女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度への登録
- 子育て支援について
- 日勤救急隊
- 職場復帰のモデル

■ 四日市市消防本部(三重県)

- マタニティ執務服の導入
- 育児休業からの職場復帰
- 職場復帰のモデル

■ 名張市消防本部(三重県)

- マタニティ制服の導入
- 近隣消防本部との意見交換
- “女性消防吏員活躍推進”部内研修

ライフステージに応じた様々な配慮

【相模原市消防局(神奈川県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域:神奈川県相模原市
- 管轄人口:725,39人(推計)
- 消防吏員数:775人
(うち女性34人・女性比率4.4%)

女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度への登録

総務省消防庁「女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度」のアドバイザーとして、平成31年度から現在までの間、本市消防局の女性消防吏員が任命され、女性消防吏員の活躍を推進するための具体的な方策に関する助言や情報の提供を行っています。全国各地における講義を通じて、全国の女性消防吏員がより一層生き生きと働くことのできる職場となることを目指して、積極的な支援にも取り組んでいます。

子育て支援について

当市では出産後の育児休業や復職後の育児部分休業等の制度があります。最大2時間の部分的な休業が可能である育児部分休業制度を取得した場合、当市では、これまで予防関係や庶務関係の毎日勤務への配属でしたが、平成31年度から**日勤救急隊を創設**したことにより、育児休業直後や育児中などの

理由で交替制勤務(24時間勤務)をすることが困難な職員においても、勤務を毎日勤務の時間に限定し短時間の勤務としたことで、ライフステージに応じた働きやすい環境が作られ、活躍の場を更に広げました。



日勤救急隊

<女性消防吏員の声> 平成26年度採用 消防副士長

人の役に立つ仕事に携わりたい。漠然とした将来の夢は、祖父が救急車にお世話になったことがきっかけとなり、「消防士になる」という明確な夢へと変わりました。大学では、救急救命士、大型免許、危険物取扱者など就職後に必要である資格を取得し、本市消防局に入局しました。消防学校を卒業後、現場経験を積み、結婚・出産・育児休業を経て、職場復帰をしました。復帰して感じたことは、どんなに効率化を図っても以前と同じ働き方をすることは、現実的に困難であり、育児と仕事の両立のためには、やはり子育てをしやすい職場環境が必要であるということです。本消防局では、ライフステージの変化に即したフォローがあり、突発的な休みも、子の看護(特別休暇)で対応することができ、子供に寄り添いながら育児をすることができました。また、事務仕事の期間中は、資格取得への派遣や様々な研修を受講する機会も与えていただきました。

さらに、現場復帰前には、訓練への参加や実災害にも隊員として出場させていただいたおかげで、現場復帰に係る不安は解消されました。これらは、組織のフォローはもちろんですが、近くに住む両親や夫の協力があったからこそ子育てで一番大変な幼児期を乗り切ることができたと思っています。

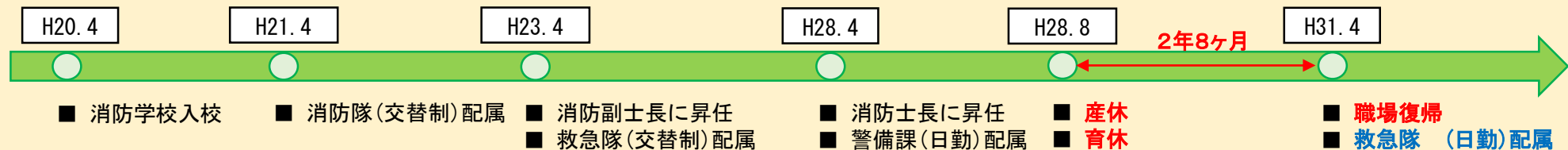
女性消防吏員の職域は拡大され、施設は整備されてきています。しかし、女性ばかりを特別視するのではなく、不安を持っている職員が少しでも減り、男女ともに働きやすい環境化で市民の生命、身体、財産を守ることに専念できる職場になることを願っています。



日勤救急隊

交替制勤務職場の救急隊は3名配置ですが、日勤救急隊は4名配置(再任用職員含む)とし、育児休業復職後に育児部分休業を取得する場合や突発的な休暇にも対応できる体制としております。また、隊員には、指導救命士や再任用職員など経験豊富な救急救命士を配置することで、ブランクがある中での救急活動の不安解消を図るとともに、訓練支援等のフォローアップを充実させています。

職場復帰のモデル



ライフステージに応じた様々な配慮

【四日市市消防本部(三重県)】



令和4年4月1日現在

○管轄区域(1市2町)

三重県四日市市
三重郡朝日町
三重郡川越町

○管轄人口:335,844人

○消防吏員数:375人

(女性17人・女性比率4.5%)

マタニティ執務服の導入

当市消防本部では、今まで女性消防吏員が妊娠し制服の着用が困難になった際にはサイズの大きい消防服を着用するなどをして対応してきましたが、令和2年度に階級章や名札が装着できる「**マタニティ執務服**」を導入しました。これにより、サイズの大きい消防服を着装することによる服装の違和感や腹部の圧迫等を軽減することができました。

育児休業からの職場復帰

妊娠や出産を経て、子育てを行いながら勤務する女性消防吏員が多く在籍している状況であり、産前後休暇や育児休業を取得して職場復帰しています。さらに育児休業の短期間取得ができること、令和4年10月から期間を分けての取得ができるようになったことから、本市では育児休業を取得する男性消防吏員もさらに増えてきています。

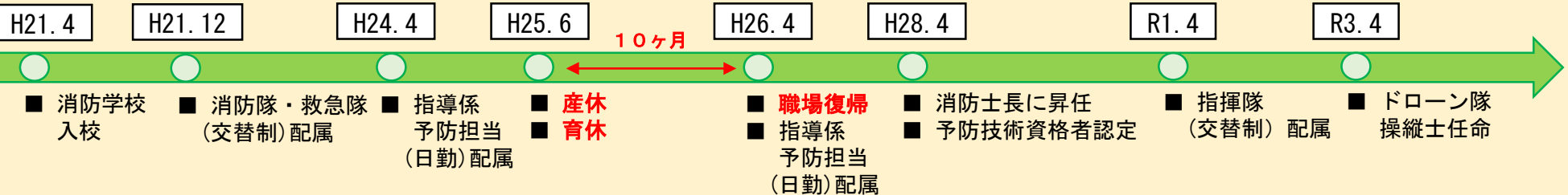
また、育児休業からの職場復帰後には、仕事と子育ての両立をスタートするための支援制度である「部分休業制度」を活用し、1日を通じて2時間以内で勤務時間の一部を勤務しないことができます。これにより、子どもの保育園送迎や突然の子どもの病気への対応が可能となります。そのほかにも、子どもが病気やケガをした際に取得できる「子の看護休暇」など、さまざまな制度があり、**女性消防吏員だけでなく、男性消防吏員も家庭と仕事の両立支援ができる環境作り**に努めています。

<女性消防吏員の声> 平成21年度採用 消防士長

私は災害が発生した時に指揮車に乗って現場へ向かいます。指揮隊長の指示のもと、現場の情報収集、無線通信、活動する隊員の安全管理や二次災害の防止、火災の原因・損害調査を行っています。
私は結婚、出産、その後に産後休暇、育児休業を取得し、職場復帰をしてしばらく毎日勤務をしていましたが、指揮隊への異動を希望し久しぶりに交替勤務することになりました。家族と職場の方々の理解とサポートもあり、家庭と仕事の両方が成り立ち、充実した日々を過ごしています。



職場復帰のモデル



ライフステージに応じた様々な配慮

【名張市消防本部(三重県)】



令和4年4月1日現在

- 管轄区域: 三重県名張市
- 管轄人口: 76,462人
- 消防吏員数: 115人
(うち女性3人・女性比率2.6%)

マタニティ制服の導入

令和4年度より、「マタニティ制服」を導入しました。以前は、妊娠した女性職員は私服で勤務をしていましたが、私服勤務では職場環境に馴染みにくいという声が挙がり、消防職員委員会にマタニティ制服の導入について意見提出がありました。賛成多数で可決となり、令和4年12月に導入となりました。右胸には階級章をつけられ、腹部はゆったりとしたワンピースタイプの制服を採用し、着用にあっては、体調に応じて私服とマタニティ制服を選択することを可能としました。着用した職員からは、職場に馴染みやすく、誇りをもって勤務ができると好評です。



マタニティ制服

<女性消防吏員の声> 平成30年度採用 消防士

救急救命士の資格取得後に採用され、隔日勤務を経験し、妊娠・出産を機に現在は毎日勤務に就いています。職場や夫の理解と協力があり、仕事と家事・育児を両立させることができている。隔日勤務時は救急隊だけでなく、警防や救助隊として現場出場、また、大型自動車免許も取得し、機関員としての訓練も重ねてきました。毎日勤務では主に救急に関する事務をしています。女性活躍推進に関する業務も行っています。採用から約5年で、現場活動から毎日勤務、結婚・妊娠と様々な経験をしてきました。少しずつ、女性も働きやすい環境ができてきていますが、自身の経験を活かし、女性がより活躍できる場を増やしていきたいと思えます。



近隣消防本部との意見交換(令和2年度)

女性消防職員採用から日が浅く、女性消防職員の先輩がいないことから、女性消防職員の活躍推進に先進的な隣接消防本部に伺い、意見交換会を実施し、女性職員のライフプランや本音の部分を取り取りました。

“女性消防吏員活躍推進”部内研修(令和4年度)

女性消防吏員活躍推進アドバイザーの派遣を依頼し、研修会を実施しました。研修会は近隣消防本部の女性職員も参加し、二部制の研修会としました。一部では全職員を対象とした、働きやすい職場環境に関する講演を、二部では女性消防職員同士で意見交換会を行いました。一部の研修会では、事前に全職員を対象とした働きやすい職場環境についてアンケートを実施し、アンケート結果をもとにアドバイザーに講演いただきました。



“女性消防吏員活躍推進”部内研修の様子

【若手女性消防吏員の声】

若手女性消防吏員の声



【名張市消防本部】 令和元年度採用 消防士

幼いころから消防車が好きで、消防士は憧れの存在でした。高校2年生の頃に、私自身が救急搬送された際、恥ずかしさや恐怖感を抱いた経験があり、女性救急隊員になり、同じような思いの人を減らしたいと思い、消防士を志しました。私は車の運転が好きで、採用後に大型自動車免許を取得しました。現在は消防車両の走行訓練を重ねています。また、救急隊では主に機関員として活動し、傷病者の搬送をしています。市民から愛され、頼りにされる消防士になるため、日々体力錬成や訓練に励み、仲間からも必要とされるよう、前向きにどんなことでも挑戦していきます。



【名張市消防本部】 令和2年度採用 消防士

私は救急救命士採用枠で消防吏員になりました。当消防本部は兼任制のため、火災・救助現場にも出動しますが、救急救命士としての運用を目指し、現場経験や訓練、座学などのカリキュラムを受け、令和5年度に救急救命士として運用開始となる予定です。救急現場では、女性ということを含め、女性ならではの目線で、安心感を与えられる声掛けをすることを心がけており、市民の方から「女性がいてくれて良かった。ありがとう。」などの声を頂いた時はすごく嬉しかったです。体力勝負の仕事でもあり、男性に劣る部分はありますが、火災、救助、救急、様々な現場に対応できるよう日々訓練に励んでいきたいと思っています。



【四街道市消防本部】 令和4年度採用 消防士

私は、以前から人助けの出来る職に就きたいと考えていました。そんな中、高校生の時に交通事故に巻き込まれた際、不安でいっぱいだった私に救急隊の方が優しい声かけを行ってくれて、それだけで救われたように思いました。私はこのような経験もあり、救急隊を目指して救急救命士の資格を取得し、現在は消防吏員として働いています。働いていると、凄くやり甲斐のある仕事であり、自分が頑張った分だけ次に繋がるといった達成感がありました。現在は千葉県消防学校初任科に入校し訓練しているところですが、四街道市消防本部で初の女性救命士になりますので、救急活動時など女性目線を活かした活動ができる隊員になれるよう、日々精進していきたいと思っています。

第2章

「女性消防吏員活躍推進モデル事業」の紹介

■ 青森県

- テレビCMの放映
- 女性消防吏員PR動画の制作

■ 宮城県消防学校

- 「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」新設プロジェクトの設立

■ 仙台市消防局(宮城県)

- スポーツ専門雑誌への広告掲載

■ 酒田地区広域行政組合消防本部(山形県)

- 漫画パンフレットによる広報
- SNS(女性活躍推進専用)広報
- PR動画制作・意見発表会の会場で上映

■ いわき市消防本部(福島県)

- PRポスター、PR動画の制作
- PR動画をデジタルサイネージで放映

■ 佐倉市八街市酒々井町消防組合(千葉県)

- 女子高生とタイアップしたPRポスター制作
- 「さくら女子インターンシップ」の開催
- PR動画の制作

女性消防吏員活躍推進モデル事業 ①

【青森県】

令和4年4月1日現在

- 県内人口:1,209,012人
- 県内消防本部数:11
- 県内消防吏員数:2,653人
(うち女性48人・女性比率1.8%)



モデル事業としての取組

＜女性の採用拡大に向けた取組＞

取組① テレビCMの放映

取組② 女性消防吏員PR動画の制作

4 テレビCM等の制作に当たって

県内の女性消防吏員10名、消防学校職員2名とともに、どのような構成にするか検討を行いました。

【テレビCM(15秒)】

コンセプト「守りたい、あなたと一緒に」

以下2点が伝わる構成としました。

- (1) 消防には大まかに「消防」、「救急」、「救助」、「指令」、「事務」の分野があること。
- (2) 県内ではそれぞれの分野で女性消防吏員が活躍していること。

【PR動画(約5分)】

以下2点を目的とした構成にしました。

- (1) テレビCMを見て消防を職業選択の1つとして興味を持った方に、消防のことや女性消防吏員の現状について理解を深めてもらう。
- (2) 消防に入ったばかりで将来的に自分の進みたい道を模索中であったり、結婚や産後の復帰など将来設計に漠然とした不安を抱えている職員にも勇気を与える。

1 テレビCM(15秒間)の放映

当初、テレビ会社より令和5年2月22日(水)からの1週間で計11本放映する案を打診されましたが、メインターゲットである女子学生等の若年層の女性が在宅していることが見込まれる、2月23日(木・祝)と同月25日(土)の休日2日間に全11回の放送を集中させるとともに、視聴率が高そうな番組枠に放送回数を増やすよう調整しました。



テレビCMサムネイル

2 動画公開

県(消防学校を含む。)や各消防本部のホームページや公式SNSはもちろん、CM等制作受託会社の青森放送株式会社社のHPに加え、「地域防災パートナーシップ協定」に基づいて、県内各市町村に対して公開を依頼しました。

3 撮影の様子

撮影場所を3か所に分けることで、1人でも多くの女性吏員が撮影に参加できるように計画し、各消防本部における交替勤務の調整等のご尽力もあり、県全体の2/3強に当たる35名の女性消防吏員に、撮影にご参加いただくことができました。また、撮影が和やかな雰囲気で行われるよう、お子さん連れでの参加を呼びかけたところ、2か所で計4名のお子さんも撮影に参加しました。



撮影風景①



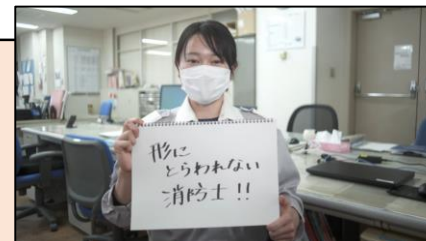
撮影風景②



撮影風景③



PR動画の様子①



PR動画の様子②

視聴URL

テレビCM

<https://youtu.be/GdLIDM2N9K0>

PR動画

<https://youtu.be/0GniwT7Ktys>

女性消防吏員活躍推進モデル事業 ②-1

【宮城県消防学校】

モデル事業としての取組

<女性消防吏員の職域の拡大>

「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」
新設プロジェクトの設立



【消防学校施設の概要】

- 敷地面積: 37,727㎡
- 管理施設、教育訓練施設、宿泊施設(定員140名)、がれき救助訓練施設、街区訓練施設等設置
- 従来の消防教育に加え、ICT教育の推進に力を入れており、令和4年度の初任科教育では80名の初任学生全員にタブレットを導入した。

1 経緯

過去5年間の県内女性消防吏員の消防学校の入校状況を調べた結果、全638名の入校者のうち女性は9名で、全体の1.4%でした。(初任教育と救急救命士継続教育の義務的入校は除く)

一方、女性消防団員は1,466名のうち95名で、全体の6.4%と女性消防吏員の6倍以上の入校状況であることが分かりました。その理由の一つとして、平成28年度から「女性消防団員活躍講習」を隔年で実施しており、令和2年度は19名、令和4年度は23名と多くの女性消防団員が受講していることが挙げられます。

女性消防団員の入校状況との比較から、女性消防吏員にも継続的に教育訓練を提供するための「講習」を新たに設置することが必要だと考えました。

宮城県の女性消防吏員の消防学校入校状況

※初任総合教育・救急救命士講習等を除く



プロジェクトメンバー等

2 「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」新設プロジェクトの設立

受講者のニーズにあわせた教育カリキュラムを編成し、多くの女性消防吏員に講習を受けてもらえるよう、消防学校において「女性消防吏員特別講習」を開催することとし、令和4年度女性消防吏員活躍推進モデル事業を活用し「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」新設プロジェクトを立ち上げました。

令和4年12月2日、宮城県消防学校に8名の委員が集まり、「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習新設プロジェクト推進会議」を開催しました。

また、県内の女性消防吏員9名等で構成される「ワーキンググループ」の設置も承認され、宮城県消防学校が事務局となりプロジェクトを進めました。

「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」新設プロジェクトについて

「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」新設プロジェクト構成

・プロジェクト推進会議 (敬称略50音順)

氏名	所属・役職	備考
1 石山 英顕	東北大学大学院法学研究科教授	元消防庁消防・救急課長
2 及川 由佳里	仙台市消防局予防部予防課主幹兼予防企画係長	消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザー
3 菊地 剛	宮城県復興・危機管理部消防課長	
4 京屋 範子	横浜市消防局総務部人事課人材育成・監察担当係長	元消防大学校助教授
5 古尾谷 敏江	元川崎市消防局職員	
6 新妻 直樹	宮城県消防学校長	
7 武藤 浩二	仙台市消防局総務部総務課長	宮城県消防長会事務局長
8 我妻 結	塩釜地区消防本部多賀城消防署主幹兼警防第二係長	

・ワーキンググループ

県内中堅女性消防吏員9人 消防本部研修担当係長、札幌市、愛媛県消防学校女性教官

・事務局

宮城県消防学校 (総務班、教務部)



会議の様子



座長の 新妻宮城県消防学校長

女性消防吏員活躍推進モデル事業 ②-2

3 ワーキンググループの設置

ワーキンググループ(以下「WG」という。)メンバーにより、令和5年度に開催する講習受講者のターゲットや訓練内容、受講体制(通学も可能等)などを検討しました。

WGからの提案を受け、事務局でカリキュラム(案)を策定し、2月16日と17日にWGメンバーが実際に受講する「プレ講習」を実施しました。「プレ講習」には、札幌市消防局消防学校と愛媛県消防学校の女性教官にも参加いただきご意見をいただきました。



ワーキンググループの様子

4 プレ講習カリキュラム

カリキュラム	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	5 限目	6 限目	7 限目
2月16日 (木)	HR 開校式	救急訓練 ・古武術	警防訓練① ・基礎訓練	警防訓練② ・指揮シミュレーション訓練	警防訓練③ ・小隊長現場指揮訓練	警防訓練④ ・ファイヤーコントロールボックス ・放水技術 ・ホットトレーニング	
2月17日 (金)	各消防本部の女性消防吏員の業務内容について	最新の消防機器 ・ドローンの活用について	消防活動後方支援訓練 ・宿営場所の設定 ・食事の準備 ・資器材撤収		最新の消防機器 ・パワースーツ体験	・まとめ ・閉講式	



プレ講習受講者



プレ講習の様子



救急訓練(古武術)



指揮シミュレーション訓練



小隊長現場指揮訓練



放水技術



ホットトレーニング

5 プロジェクトムービーの制作

WGでプロジェクトムービーを制作しました。

このムービーは、これから消防士を目指す方へ「消防士は誰もが目指すことができる」ということ、そして県内の消防職員へ向け「宮城県消防学校は女性でも入校しやすい」ということのメッセージを込め制作しました。

完成したムービーはSNS等で発信するほか、県内の消防本部などへ提供し、各種イベントなどで使用いただきたいと考えています。



6 成果報告

プレ講習を経て出た意見等を参考に、事務局がさらに精査したカリキュラム(案)を含む「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習実施要領」と完成したプロジェクトムービーを、第2回プロジェクト推進会議で報告しました。

委員からは、カリキュラムについては、「開催するにあたり他専科との調整が必要」、「WGの意見を大事に次につなげて下さい。」等の意見を、ムービーについては、「宮城県の消防職員の活躍が映し出されている!」、「多くの若い世代や消防職員に届いてほしい!」との感想をいただきました。

令和5年度に実施する「宮城県消防学校女性消防吏員特別講習」に向け、さらに各方面と調整を図り進めてまいります。本校は宮城県内の消防吏員の「母校」です。リカレント教育の場として、多くの消防吏員に各種教育を受けていただきたいと思ひます。



女性消防吏員活躍推進モデル事業 ③

【仙台市消防局(宮城県)】

令和4年4月1日現在

- 管轄区域:宮城県仙台市
- 管轄人口:1,062,285人
- 消防吏員数:1,108人
(うち女性34人・女性比率3.1%)



モデル事業としての取組

＜女性の採用拡大に向けた取組＞
スポーツ専門雑誌への広告掲載

4 広告の制作

女性消防吏員へのアンケート結果から、撮影する写真のイメージや広告のキャッチコピーを決定し、少しでも消防に対するイメージを和らげ、女性が感じる不安を払拭できる1ページにするよう心掛けました。

実際の撮影も楽しい雰囲気が進み、災害現場の最前線で働く張り詰めた表情だけでなく、誰もが親しみを持てるような職員の飾らない日常を切り取ることができました。



雑誌広告

5 今後の展開

今回作成した広告をより多くの方に知っていただき、消防がより身近な存在であると認識してもらえるよう、同デザインのポスターを作成することにしました。作成したポスターは、各種説明会での活用や市内の大学・専門学校・高等学校等への配布を計画しています。

また、より有効な広報の実現を目指し、令和5年度に当局で実施予定の業務説明会で参加者アンケートを実施し、今回の広告デザインに対する率直な意見等をいただく予定です。そこで得た意見を参考に、更なる女性の受験者増加に向けた広報の在り方を検討して参ります。

1 経緯

過去の採用試験受験者を見ると、消防業務の特色から、学生時代にスポーツ系の部活動に力を入れ、体力に自信がある人が多く志望している傾向があったため、体育会系の女子学生を対象とした広報ができないかと考えました。そこで着目したのが、県内のスポーツ専門雑誌への広告掲載でした。

2 広告掲載

- ・掲載媒体:河北スポーツマガジンstandard宮城
- ・掲載スペース:1ページ(270mm×207mm)
- ・販売場所:県内書店、コンビニエンスストア等
- ・発行部数:約10,000冊
- ・対象:スポーツをしていて就職を考えている学生
- ・掲載内容:女性消防吏員をモデルとして起用した
令和5年度職員採用試験に係る案内

3 広告掲載に当たって

どのような広告が有効かを確認するため、当局の女性消防吏員へアンケートを実施しました。
〈アンケート結果(抜粋)〉 アンケート回答数:27名

① 消防士として採用される前に、不安だったことはありますか？(選択式、複数回答可)

- ・体力面 15人
- ・業務の困難度・専門性 11人
- ・体育会系(厳しい指導) 6人
- ・福利厚生 1人
- ・その他 5人

② 採用前に消防に抱いていたイメージを教えてください。(自由記述)

- ・使命感や責任感を持っている職員が多い
- ・体力を必要とする場面が多そう
- ・人命救助の最前線がかっこいい
- ・男性職員が多く、女性職員が孤立しそう
- ・現場活動で女性が活躍できる部分が少ないのではないかと

③ 就職を考える女性に説明する場合、当局のアピールポイントはどんな部分ですか？(自由記述)

- ・女性でも警防や救急をはじめとした様々な分野で活躍できる
- ・必要以上の体力はなくても大丈夫
- ・女性職員同士のつながりがあるので、何かあった時にすぐ相談できる
- ・女性職員の先輩が多いので、ロールモデルができています
- ・仮眠室等の設備も充実しており、男性職員の理解もあるため、働きやすい職場環境にある



女性消防吏員活躍推進モデル事業 ④-1

【酒田地区広域行政組合消防本部(山形県)】

モデル事業としての取組

<女性の採用拡大に向けた取組>

- 取組① 漫画パンフレットによる広報
- 取組② SNS(女性活躍推進専用)広報
- 取組③ PR動画制作・意見発表会の会場で上映



令和4年4月1日現在

- 管轄区域:酒田市、庄内町、遊佐町
- 管轄人口:131,276人
- 消防吏員数:219人
(うち女性2名・女性比率0.9%)

1 経緯

女性消防吏員の比率向上に向け令和3年度に女性職員を含む若手職員を中心に「女性消防吏員採用促進プロジェクトチーム」を結成しました。地元女子大学生との連携による取組やプロジェクトチームで提案・検討していたアイデアをベースに、令和4年度女性消防吏員活躍推進モデル事業を活用することとしました。

2 漫画パンフレットによる広報

酒田市の東北公益文科大学の女子学生が「課題挑戦型インターンシップ」として、当組合消防本部で「女性消防職員の採用増加」をテーマに取り組み、女子高校生が主人公の短編漫画を制作しました。これをパンフレットとして製本し、庄内地区の全高等学校の女子学生1・2年生に配布するとともに、ワンデイインターンシップの開催告知に活用しました。

令和4年9月7日(水)にプレス向け完成披露会を実施し、その様子が2紙(庄内日報、山形新聞)に掲載されました。当該漫画はホームページ、Instagramで公開するとともに、パンフレットは管内の商業施設等でも配布しました。

【閲覧用URL】 <https://www.city.sakata.lg.jp/bousai/syobokyuku/syobooshirase/shobocomicpamph.html>

完成披露会時の記念撮影



消防関連の
イベント紹介

【酒田地区広域行政組合消防本部(山形県)】

モデル事業としての取組

＜女性の採用拡大に向けた取組＞

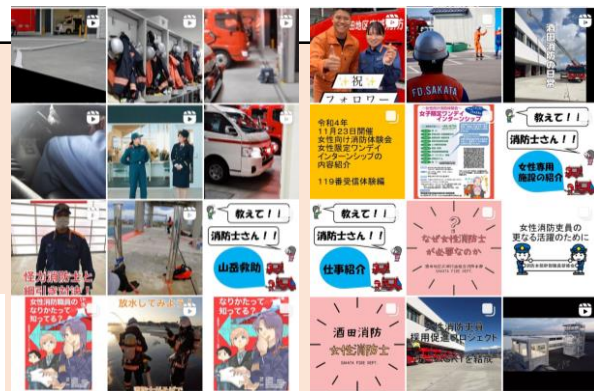
- 取組① 漫画パンフレットによる広報
- 取組② SNS(女性活躍推進専用)広報
- 取組③ PR動画制作・意見発表会の会場で上映

3 SNS(女性活躍推進専用)広報

今後、女性消防吏員になることが見込まれる世代の女性に向けた広報として、最も効果的と考えられるSNS(Instagram)での情報発信を行うため、「女性消防吏員活躍推進専用アカウント」を設け、女性消防吏員の活躍に関する情報発信やワンディインターンシップ開催告知等を行いました。現在フォロワーは570人以上、最も再生回数の多い動画は5万回を超えました。



Instagram投稿内容



4 女子限定ワンディインターンシップの開催

女子中高大学生を対象として、令和4年11月23日(水・祝日)に消防本部・消防署構内でワンディインターンシップを実施し、9名(中学生5名、高校生2名、大学生2名)の女子学生に参加いただきました。

参加者からは、「楽しかったのでもっと色々やってみたかった」「就職を目指したい」「消防吏員になりたい」といった好意的な感想が寄せられ、未来の女性消防吏員誕生を期待させるイベントとなりました。



救急業務体験



ロープレスキュー体験



参加者集合写真



女子限定ワンディ
インターンシップ開催告知

5 PR動画制作・意見発表会の会場で上映

就職説明会等で女性の消防業務の様子を紹介する「HELLO!!酒田消防女子」、令和3年11月に開庁した新消防本部・消防署庁舎の見学者(主に小学生)向けの業務紹介に、女性職員が活躍する映像を取り入れた「WELCOME」の動画2本(それぞれ約10分)及び、前記動画の撮影素材を利用したInstagram用の短編動画10本(各約15秒)を制作しました。

当組合消防本部では平成25年から、消防業務への理解と関心を高め将来の選択肢としての意識づけを目的として、消防職員意見発表会を地元高等学校を会場に開催してきました。令和4年12月9日(金)に山形県立酒田西高等学校で実施した第43回消防職員意見発表会の冒頭で「HELLO!!酒田消防女子」を上映し、2年生約120名が視聴しました。

「WELCOME」は小学生の授業の一環である見学来庁の際に上映し、見学後の学校の授業でも活用され、女性消防吏員の活躍の様子を紹介することが出来ました。



PR動画



HELLO



WELCOME



YouTube



意見発表会
会場での上映



見学来庁の際の上映

女性消防吏員活躍推進モデル事業 ⑤

【いわき市消防本部(福島県)】

令和4年4月1日現在

- 管轄区域:福島県いわき市
- 管轄人口:
- 消防吏員数:364人
(うち女性10人・女性比率2.6%)



モデル事業としての取組

〈女性の採用拡大に向けた取組〉

取組① PRポスター、PR動画の制作

取組② PR動画をデジタルサイネージで放映

1 PRポスター、PR動画の制作

「私たちが輝ける仕事」をテーマに、本市消防本部の女性消防吏員を「サンシャイン消防女子」と題し、動画及びポスターを制作しました。女性消防吏員が消防本部を明るく照らすイメージと、本市が全国の日照時間ランキングで常に上位5%に位置していることから「サンシャイン」を用いることとしました。

動画は、消防の代表的な業務である「警防・救急・予防・指令」にパートを分け、現役の女性消防吏員が生き生きと働く姿を紹介する内容となっています。

ポスターには、動画視聴に繋がるようQRコード等を掲載し、市内店舗や学校等に掲示しています。本市の公式YouTubeチャンネル「iTube」に動画を掲載するとともに、本市SNS(Facebook、Twitter)にて広報しました。

令和5年2月現在、動画の再生回数は2,000回に迫っています。



PR動画サムネイル



PRポスター

2 PR動画をデジタルサイネージで放映

制作した動画は、本市の主要な駅である「いわき駅」の前に設置されている東北最大規模のデジタルサイネージを活用して、令和4年11月から令和5年1月まで放映し、駅を利用して通学する高校生や大学生等に対しPRをしました。

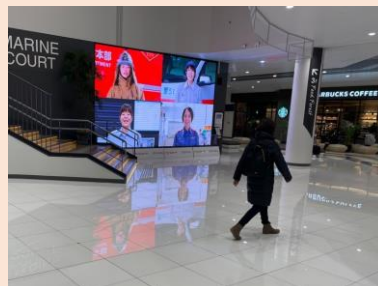
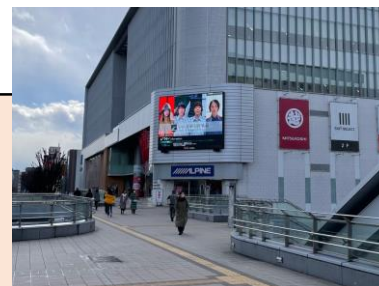
また、大型商業施設に設置されているデジタルサイネージを活用した動画放映も行いました。

本事業により、「消防は女性が輝ける仕事」であることを幅広い世代に発信できたことは大きな成果となりました。また、本事業を地元報道機関にも取り上げていただいたことで、女性消防吏員として働く魅力を市内にPRできました。

これからは、今回作成した動画やポスターを活用し、更なる広報活動に繋げるとともに、例年参加している就職活動イベントに限らず、高校、大学等に積極的に訪問し、学生等に直接消防の魅力を発信できる機会を作っていきたいと考えています。



大型デジタルサイネージでの放映



大型商業施設デジタルサイネージでの放映



PR動画のQRコード

女性消防吏員活躍推進モデル事業 ⑥

【佐倉市八街市酒々井町消防組合(千葉県)】

○管轄区域:千葉県佐倉市、八街市、酒々井町(2市1町)
 ○管轄人口:259,481人 ○消防吏員数:392人 (うち女性13人・女性比率3.3%)

モデル事業としての取組

＜女性の採用拡大に向けた取組＞

- 取組① 女子高生とタイアップしたPRポスター制作
- 取組② 「さくら女子インターンシップ」の開催
- 取組③ PR動画の制作



1 女子高生とタイアップしたポスター制作

組合管内にある学校法人千葉黎明学園 千葉黎明高等学校(八街市)美術部・書道部とポスターの共同制作をしました。美術部がイラストを作成し、題字「さくら女子」は書道部に作成していただきました。

女性救助隊員に憧れている少女と「多くの命を救いたいという思いに性差はない」との想いで努力と信念を貫き、当消防組合初の女性救助隊員に任命された女性消防吏員をモデルとしています。



2 「さくら女子インターンシップ」の開催

「さくら女子インターンシップ」は、女子学生に職業体験の機会を提供し、消防業務に対するやりがいや魅力を感じてもらうことを目的として開催しました。令和4年12月2、3日の2日間で、約30名の女子学生に参加いただきました。

このインターンシップは、地名＝「佐倉」にちなんで「さくら色」を基調とし、消防＝赤色の力強さのイメージに、さくら色の優しさ・可愛らしさを加え調和させ、親近感を抱いてもらうことをコンセプトとしています。

救助訓練、女性専用施設の見学のほか、放水体験では「さくら色」のヘルメット、ホース、手袋を使用し、梯子車搭乗では、「さくら」のデザインをしたヘルメットを使用しました。また、女性消防吏員との座談会では、救急救命士や救助隊員を目指している学生からの相談に自身の経験をもとに親切、丁寧なアドバイスしました。



組合HPのQRコード



開催告知チラシ



「さくら色」ヘルメット等



放水体験の様子



女性消防吏員との座談会



参加者との集合写真

3 PR動画の制作

「私の情熱が活きる場所」をコンセプトに、当消防組合で幅広く活躍している女性消防吏員(救急隊、機関員、救助隊、指令管制員、ドローン操縦士、本部職員)を紹介する動画を制作しました。この動画を通じて、消防業務に対するやりがいや魅力を発信するとともに女性消防吏員の活躍推進と採用促進により一層取り組んでいきたいと思ひます。

【タイトルデザイン】学校法人千葉黎明学園 千葉黎明高等学校 書道部



第3章

女性消防吏員に係る基礎データ資料

消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組（通知）の概要

- 「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進について（平成27年7月29日付け消防消第149号消防庁次長通知）」を各都道府県知事あてに発出
⇒消防本部における女性消防吏員の活躍推進のため積極的な取組を要請。

(1) 女性消防吏員の計画的な増員の確保

- ア 数値目標の設定による計画的な増員
全国の消防吏員に占める女性消防吏員比率を**平成38年度**
(令和8年度)当初までに5%に引き上げる。

そのためには、

各消防本部において女性消防吏員比率を10年間で倍増

- 中核的な消防本部など一定規模以上の本部では少なくとも5%まで増加
- 女性消防吏員がゼロの本部は、これを早期に解消し、可能な限り速やかに複数の女性消防吏員を確保を目安として、消防本部が数値目標を設定すること。

※平成29年度の採用段階から少なくとも、これまでの2倍～2.5倍程度以上の女性吏員採用を確保・継続

イ 女性の採用の拡大に向けた積極的な取組

- ・女性消防吏員を増加させるためには、まずは消防を自らの職業として選択肢に含める女性を大幅に増やすことが必要。
- ・各消防本部は、これから社会人になる年齢層の女性に対し、消防の仕事の魅力について、より積極的にPR。
- ・女性をターゲットにした説明会等を複数本部が連携して実施すること。
⇒消防庁として積極的に支援

(2) 適材適所を原則とした女性消防吏員の職域の拡大

各消防本部は、法令による制限を(重量物・有毒ガス)を除き、性別を理由として従事できる業務を制限することはできないことを十分理解し、意欲と適性に応じた人事配置を行うこと。

(3) ライフステージに応じた様々な配慮

- ア 仕事と家庭の両立支援
- イ 女性消防吏員が消防職務を継続していくための支援
- ウ キャリアパスイメージやロールモデルの提示
- エ 「ポジティブ・アクション」としての研修機会の拡大

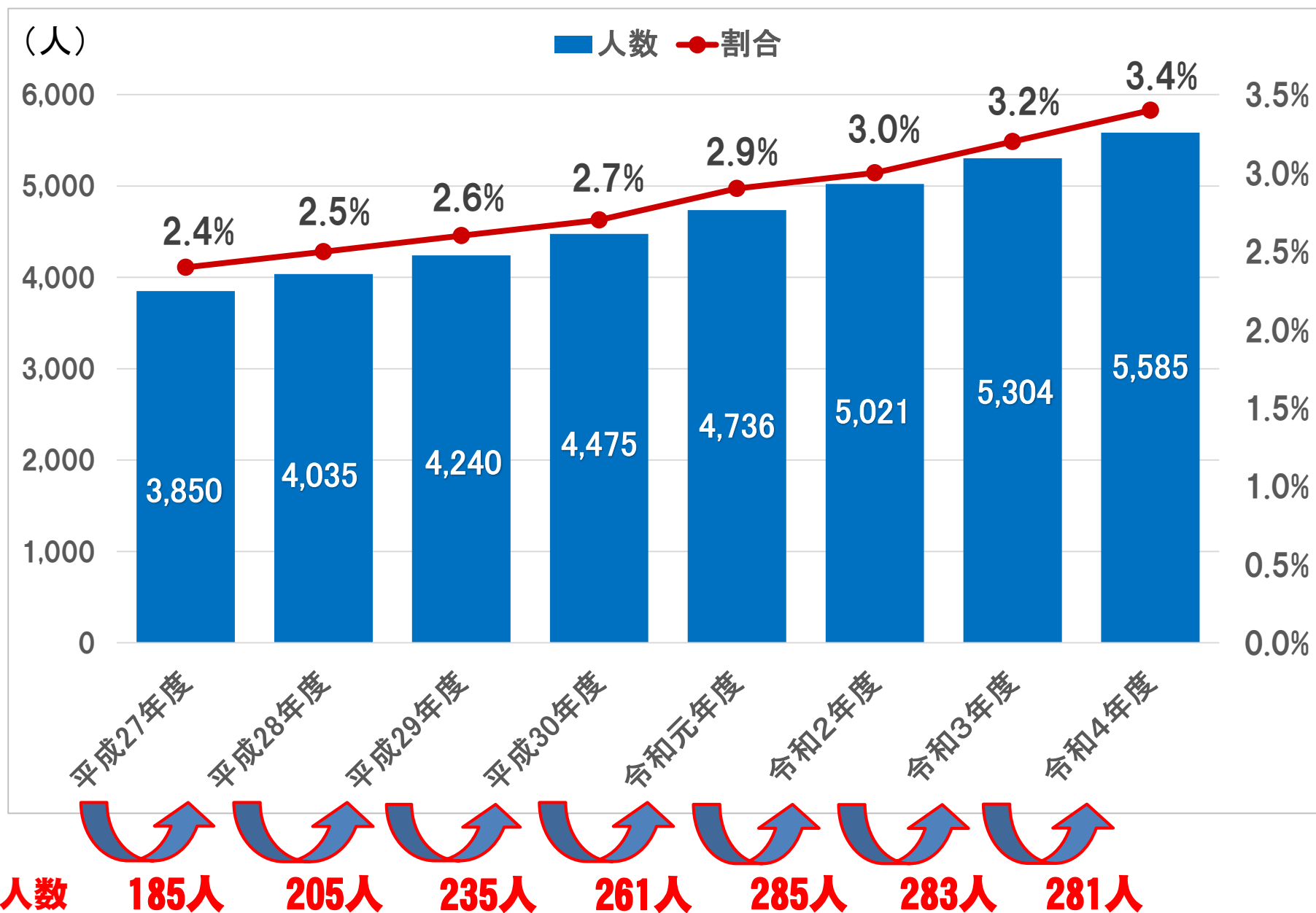
(4) 消防長等消防本部幹部職員の見識改革

各消防本部の消防長は、女性の活躍推進の意義を十分に理解し、自らの責務として各種の施策を実行すること。

(5) その他

- ア 施設・装備の改善
- イ 女性の活躍情報の「見える化」を推進等

女性消防吏員割合（各年4月1日現在）

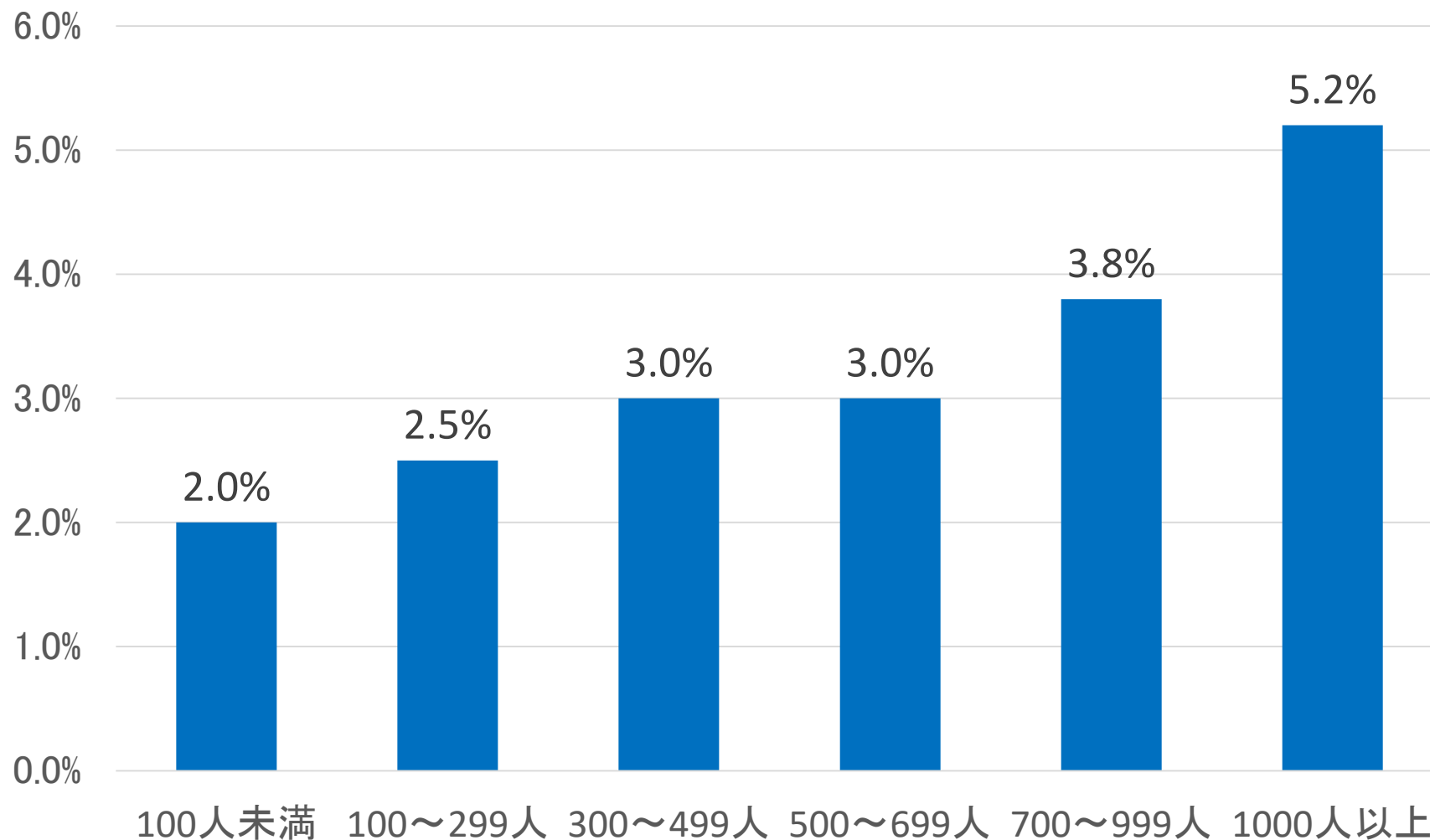


《参考》 女性比率

- ・ **消防吏員** : **3.4 %** (R4.4.1現在)
- ・ **警察官** : **10.9 %** (R4.4.1現在)
(地方警察官に占める女性警察官の割合)
- ・ **自衛官** : **8.3 %** (R3年度末現在)
- ・ **海上保安庁** : **8.6 %** (R4.4.1現在)
- ・ **一般行政職** : **31.0 %** (H30年4.1現在)
(地方公務員)

消防と同様に24時間365日現場活動を行う部隊を持つ組織と比較して低水準。

消防本部規模ごとの女性消防吏員割合（令和4年4月1日現在）



消防本部数	259	348	76	16	8	16
-------	-----	-----	----	----	---	----

大規模消防本部ほど女性消防吏員の割合は高い傾向にある。

全国的全消防吏員数に占める女性割合（各年4月1日現在）

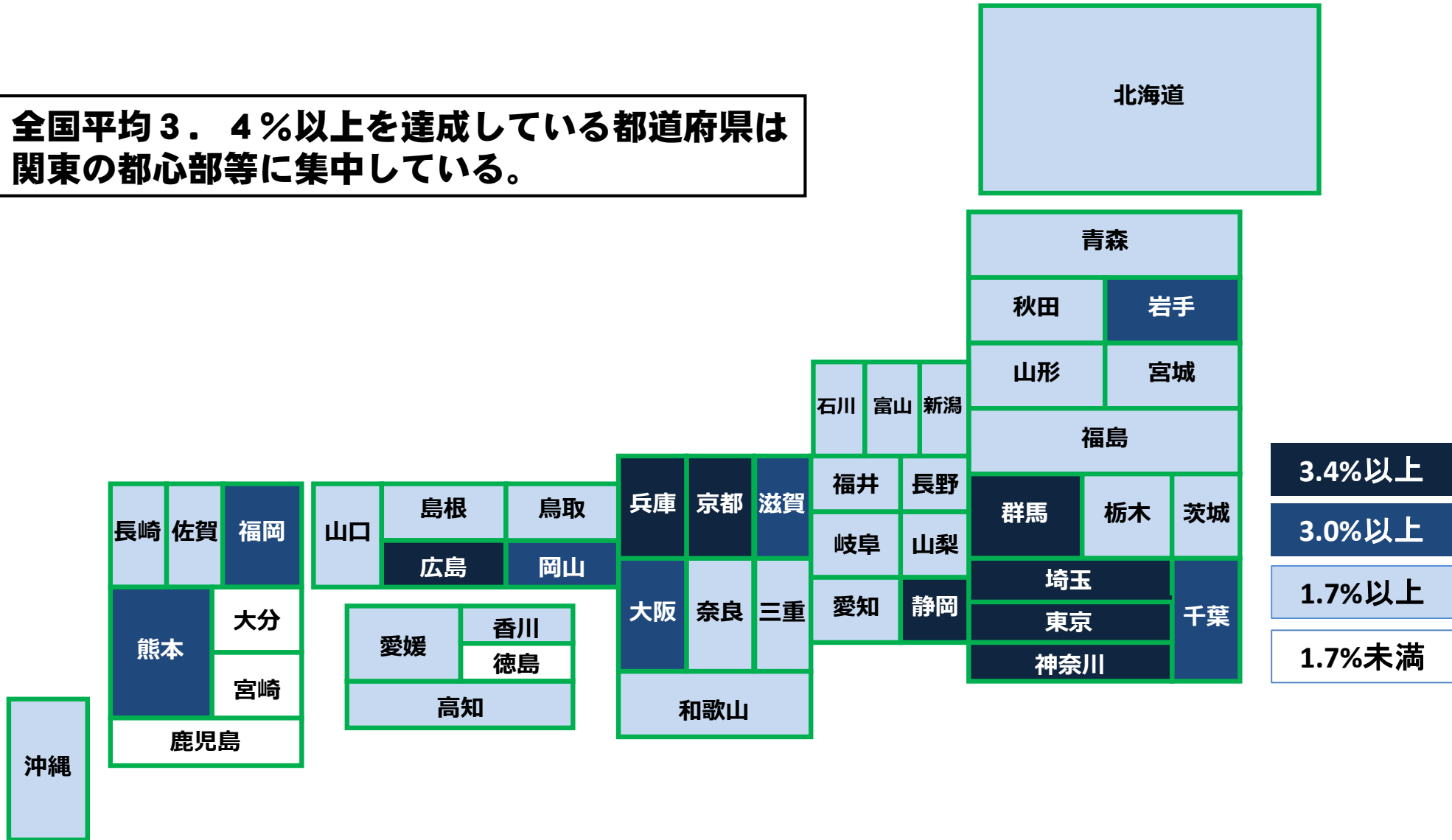
	令和2年			令和3年			令和4年		
	全数(A)	うち女性(B)	割合(B/A)	全数(A)	うち女性(B)	割合(B/A)	全数(A)	うち女性(B)	割合(B/A)
全数	165,044	5,021	3.0%	165,463	5,304	3.2%	165,928	5,585	3.4%
日勤者	35,221(21.3%)	2,601(51.8%)	7.4%	35,296(21.3%)	2,680(50.5%)	7.4%	34,981(21.1%)	2,776(49.7%)	7.9%
消防隊	72,410(43.9%)	951(18.9%)	1.3%	72,679(43.9%)	1,077(20.3%)	1.5%	71,415(43.0%)	1,140(20.4%)	1.6%
救急隊	29,913(18.1%)	1,083(21.6%)	3.6%	29,962(18.1%)	1,125(21.2%)	3.8%	29,818(18.0%)	1,174(21.0%)	3.9%
救助隊	13,908(8.4%)	15(0.3%)	0.1%	14,024(8.5%)	15(0.3%)	0.1%	13,151(7.9%)	21(0.4%)	0.2%
指揮隊	6,644(4.0%)	161(3.2%)	2.4%	6,628(4.0%)	180(3.4%)	2.7%	6,760(4.1%)	192(3.5%)	2.8%
その他	6,948(4.2%)	210(4.2%)	3.0%	6,874(4.2%)	227(4.3%)	3.3%	9,803(5.9%)	282(5.0%)	2.9%

「女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組等に関する調査」の調査結果より

注：兼務している職員は、主に従事している部隊で回答しており、他の調査と数字が合わない場合がある。

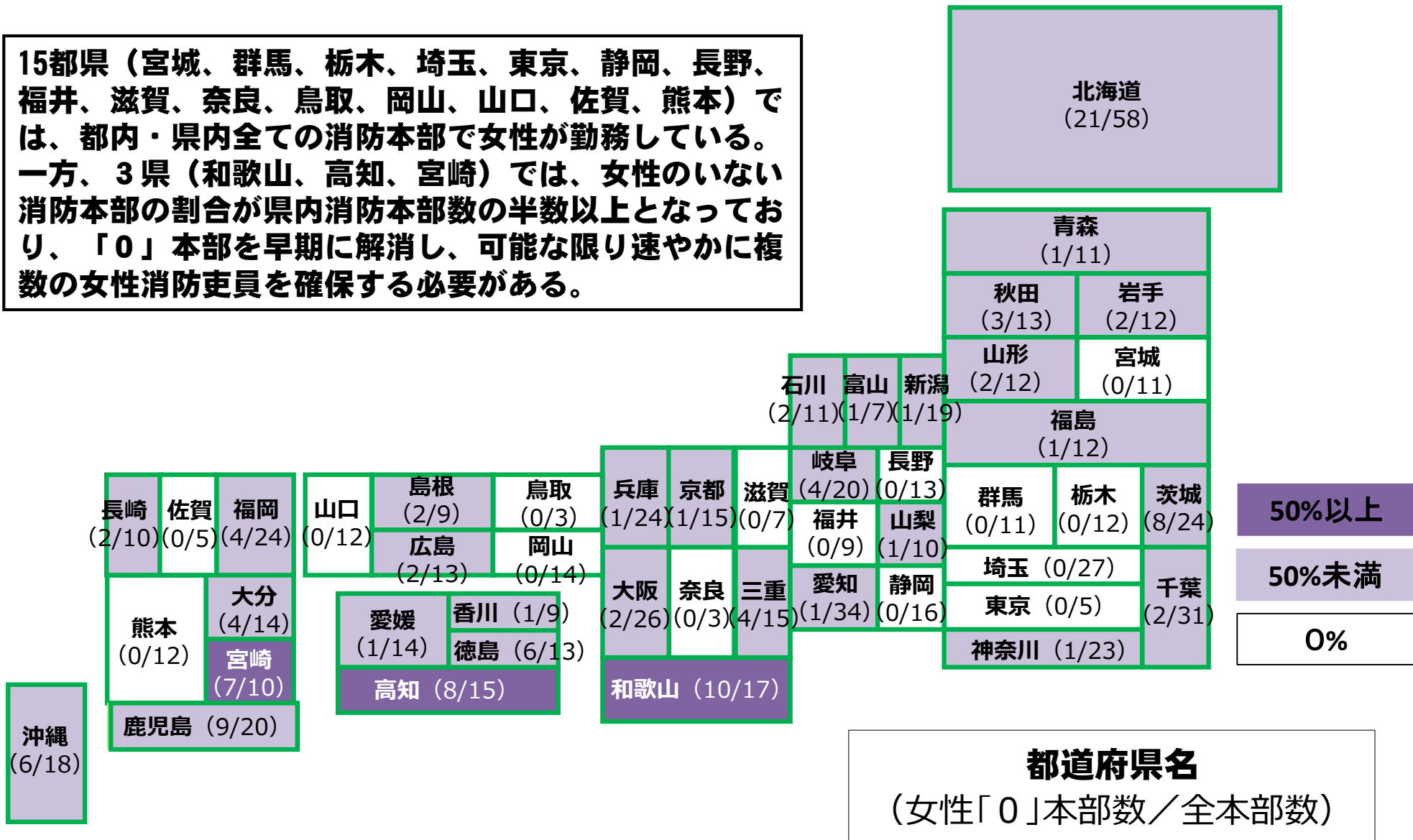
都道府県別女性消防吏員割合（令和4年4月1日現在）

全国平均3.4%以上を達成している都道府県は
関東の都心部等に集中している。



都道府県別女性消防吏員「0」本部の割合（令和4年4月1日現在）

15都県（宮城、群馬、栃木、埼玉、東京、静岡、長野、福井、滋賀、奈良、鳥取、岡山、山口、佐賀、熊本）では、都内・県内全ての消防本部で女性が勤務している。一方、3県（和歌山、高知、宮崎）では、女性のいない消防本部の割合が県内消防本部数の半数以上となっており、「0」本部を早期に解消し、可能な限り速やかに複数の女性消防吏員を確保する必要がある。



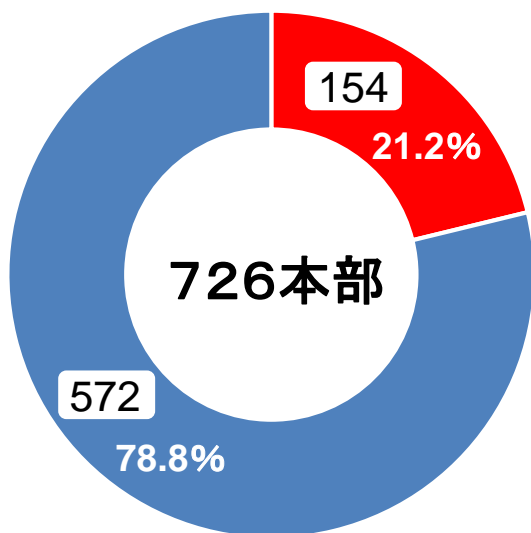
50%以上
50%未満
0%

都道府県名
(女性「0」本部数 / 全本部数)

女性消防吏員「0」本部 3年間の推移

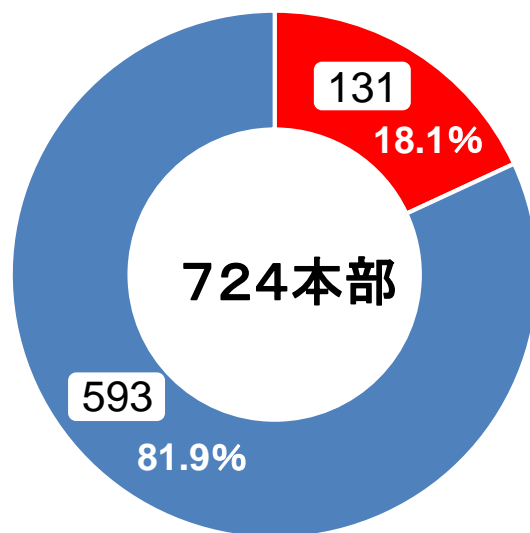
女性消防吏員「0」の消防本部は
全723消防本部中、121本部で毎年大きく減少している。

令和2年4月1日現在



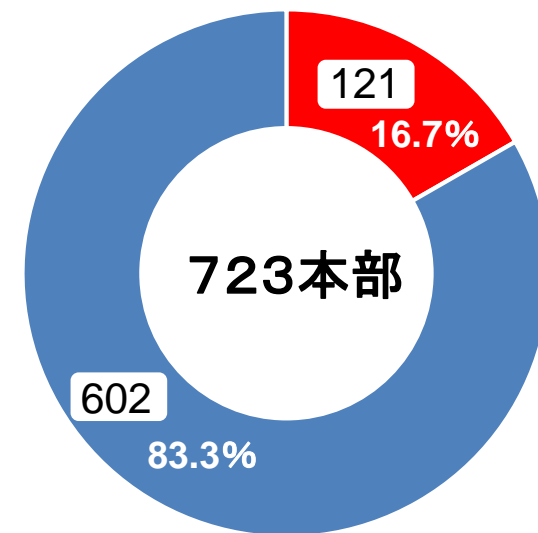
23本部
減少

令和3年4月1日現在



10本部
減少

令和4年4月1日現在



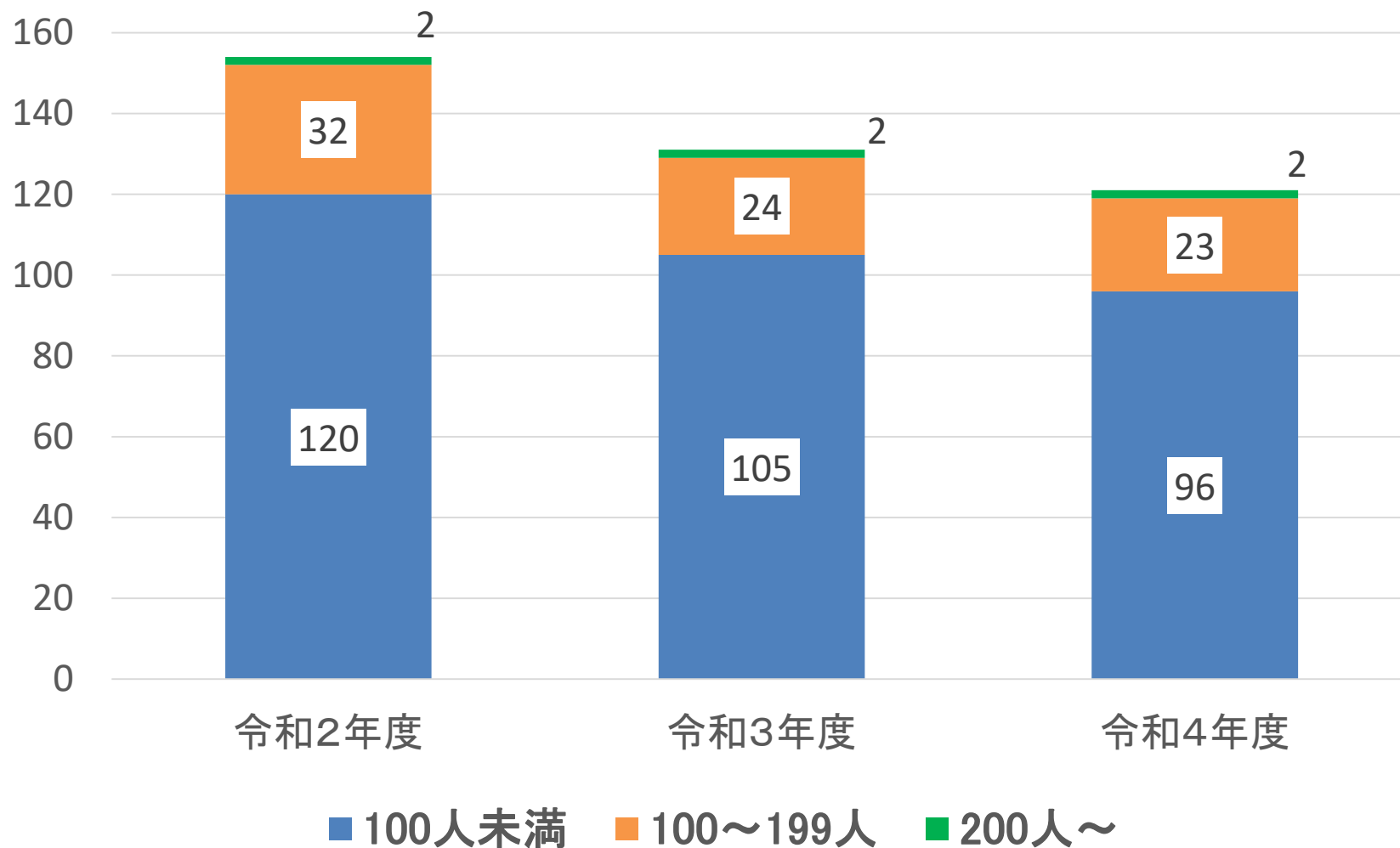
女性消防吏員「0名」の消防本部



女性消防吏員「1名以上」の消防本部

女性消防吏員「0」本部 規模別内訳（各年4月1日現在）

「0」本部は、全職員数100名未満の小規模本部の割合が大きいものの、年々減少傾向にある。



消防吏員の採用状況等

採用試験 実施年度	応募者			受験者			合格者			採用者		
	合計	うち 女性	女性 割合	合計	うち 女性	女性 割合	合計	うち 女性	女性 割合	合計	うち 女性	女性 割合
平成26年度	86,371	3,473	4.0%				7,449	270	3.6%	6,720	235	3.5%
平成27年度	82,143	3,313	4.0%	65,685	2,531	3.9%	7,450	332	4.5%	6,401	261	4.1%
平成28年度	77,052	3,205	4.2%	62,908	2,512	4.0%	6,512	356	5.5%	5,723	274	4.8%
平成29年度	72,509	3,253	4.5%	58,395	2,566	4.4%	6,354	374	5.9%	5,459	306	5.6%
平成30年度	65,352	3,430	5.2%	53,050	2,734	5.2%	6,351	411	6.5%	5,544	329	5.9%
令和元年度	61,563	3,292	5.4%	49,540	2,526	5.1%	6,311	451	7.2%	5,448	386	7.1%
令和2年度	60,188	3,259	5.4%	47,580	2,469	5.2%	6,673	500	7.5%	5,098	380	7.5%
令和3年度	54,661	3,076	5.6%	43,967	2,347	5.3%	5,816	474	8.2%	5,100	383	7.5%

※平成26年度以前の受験者は統計なし

消防職員への応募者が減少している中、「受験者」、「合格者」、「採用者」の項目で女性が割合が増加している。

女性消防吏員が増加した本部上位（令和4年4月1日現在）

NO.	都道府県	消防本部名	令和4年度			令和3年度			増減	
			消防吏員数			消防吏員数			R4度—R3度	
			合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性
1	東京都	東京消防庁	18835	1306	6.93%	18735	1282	6.84%	100	24
2	神奈川県	横浜市消防局	3886	163	4.19%	3868	149	3.85%	18	14
3	愛知県	名古屋市消防局	2409	71	2.95%	2403	62	2.58%	6	9
4	大阪府	大阪市消防局	3607	158	4.38%	3592	150	4.18%	15	8
5	神奈川県	川崎市消防局	1464	77	5.26%	1453	70	4.82%	11	7
6	埼玉県	さいたま市消防局	1399	58	4.15%	1399	54	3.86%	0	4
7	静岡県	駿東伊豆消防本部	623	22	3.53%	625	18	2.88%	△2	4
8	滋賀県	大津市消防局	333	13	3.90%	323	9	2.79%	10	4
9	埼玉県	川口市消防局	586	29	4.95%	572	26	4.55%	14	3
10	神奈川県	海老名市消防本部	190	11	5.79%	189	8	4.23%	1	3
11	石川県	白山野々市広域消防本部	221	5	2.26%	223	2	0.90%	△2	3
12	大阪府	豊中市消防局	424	14	3.30%	424	11	2.59%	0	3
13	兵庫県	姫路市消防局	610	24	3.93%	607	21	3.46%	3	3
14	兵庫県	西宮市消防局	505	12	2.38%	498	9	1.81%	7	3
15	広島県	広島市消防局	1345	61	4.54%	1343	58	4.32%	2	3

女性消防吏員が3名以上増加した15消防本部のうち、7本部が政令市（東京を含む）

女性消防吏員が多い本部上位（令和4年4月1日現在）

NO.	都道府県	消防本部名	令和4年度			令和3年度			増減	
			消防吏員数			消防吏員数			R4度—R3度	
			合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性
1	東京都	東京消防庁	18835	1306	6.93%	18735	1282	6.84%	100	24
2	神奈川県	横浜市消防局	3886	163	4.19%	3868	149	3.85%	18	14
3	大阪府	大阪市消防局	3607	158	4.38%	3592	150	4.18%	15	8
4	京都府	京都市消防局	1666	81	4.86%	1718	83	4.83%	△52	△2
5	神奈川県	川崎市消防局	1464	77	5.26%	1453	70	4.82%	11	7
6	愛知県	名古屋市消防局	2409	71	2.95%	2403	62	2.58%	6	9
7	北海道	札幌市消防局	1829	71	3.88%	1834	70	3.82%	△5	1
8	兵庫県	神戸市消防局	1593	67	4.21%	1597	66	4.13%	△4	1
9	広島県	広島市消防局	1345	61	4.54%	1343	58	4.32%	2	3
10	埼玉県	さいたま市消防局	1399	58	4.15%	1399	54	3.86%	0	4
11	福岡県	北九州市消防局	1008	54	5.36%	1005	53	5.27%	3	1
12	埼玉県	埼玉西部消防局	871	45	5.17%	871	44	5.05%	0	1
13	静岡県	静岡市消防局	1071	43	4.01%	1061	42	3.96%	10	1
14	千葉県	千葉市消防局	967	40	4.14%	972	42	4.32%	△5	△2
15	大阪府	堺市消防局	1040	37	3.56%	1046	37	3.54%	△6	0
16	宮城県	仙台市消防局	1141	34	2.98%	1145	34	2.97%	△4	0
17	神奈川県	相模原市消防局	775	34	4.39%	775	32	4.13%	0	2
18	福岡県	福岡市消防局	1132	34	3.00%	1113	34	3.05%	19	0
19	千葉県	市川市消防局	538	33	6.13%	535	32	5.98%	3	1
20	熊本県	熊本市消防局	830	33	3.98%	827	32	3.87%	3	1
21	静岡県	浜松市消防局	915	32	3.50%	907	33	3.64%	8	△1
22	岡山県	岡山市消防局	787	31	3.94%	787	29	3.68%	0	0

女性消防吏員30名以上の22消防本部は大規模本部で、女性割合はほぼ全国平均割合（3.4%）以上

女性消防吏員割合が多い本部上位（令和4年4月1日現在）

NO.	都道府県	消防本部名	令和4年度			令和3年度			増減	
			消防吏員数			消防吏員数			R4度—R3度	
			合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性
1	石川県	内灘町消防本部	34	3	8.82%	34	3	8.82%	0	0
2	神奈川県	大磯町消防本部	48	4	8.33%	46	4	8.70%	2	0
3	愛媛県	上島町消防本部	25	2	8.00%	26	2	7.69%	△1	0
4	埼玉県	蓮田市消防本部	92	7	7.61%	92	7	7.61%	0	0
5	神奈川県	湯河原町消防本部	79	6	7.59%	79	4	5.06%	0	2
6	東京都	八丈町消防本部	27	2	7.41%	28	1	3.57%	△1	1
7	東京都	稲城市消防本部	109	8	7.34%	108	7	6.48%	1	1
8	愛媛県	愛南町消防本部	41	3	7.32%	43	2	4.65%	△2	1
9	東京都	東京消防庁	18835	1306	6.93%	18735	1282	6.84%	100	24
10	広島県	安芸高田市消防本部	58	4	6.90%	59	4	6.78%	△1	0
11	静岡県	御前崎市消防本部	74	5	6.76%	74	5	6.76%	0	0
12	兵庫県	芦屋市消防本部	122	8	6.56%	121	6	4.96%	1	2
13	長崎県	対馬市消防本部	93	6	6.45%	97	7	7.22%	△4	△1
14	埼玉県	草加八潮消防局	344	22	6.40%	343	21	6.12%	1	1
15	千葉県	富津市消防本部	94	6	6.38%	96	5	5.21%	△2	1
16	和歌山県	湯浅広川消防組合消防本部	47	3	6.38%	47	3	6.38%	0	0
17	岐阜県	海津市消防本部	63	4	6.35%	62	5	8.06%	1	△1
18	東京都	三宅村消防本部	16	1	6.25%	16	1	6.25%	0	0
19	兵庫県	川西市消防本部	161	10	6.21%	160	10	6.25%	1	0
20	千葉県	市川市消防局	538	33	6.13%	535	32	5.98%	3	1

**女性割合が5%以上の消防本部の約5割が、吏員100名未満の本部。
小規模な本部でも、女性が活躍している本部は多数ある。**

男性職員の育児休業等取得促進について

男性地方公務員の育児休業取得状況(令和3年度)

(単位:人)

区分	令和3年度中に新たに育児休業 が取得可能となった職員数(A)	令和3年度中の 新規取得者数(B)	取得率 (B/A)
首長部局等	24,824	8,576	34.5%
警察部門	15,627	1,511	9.7%
消防部門	6,979	585	8.4%
教育委員会	19,932	2,479	12.4%
合計	67,362	13,151	19.5%

※(B)には、令和2年度以前に育児休業等が取得可能となり、令和3年度から新たに育児休業を取得した者が含まれる

男性職員の育児休業等の取得促進に関し、積極的な取組をお願いする消防・救急課長通知「男性職員の育児休業等の取得促進について」(消防消第122号、令和元年7月23日)を发出